

週刊東興通信

発行所

〒188-0011 東京都西東京市田無町5の8の1

(有)東興通信社

042(462)6005

http://042.toukou-t.com

水曜日発行 1部40円



(508)

ピアノリスト 佐藤 恵美

中学から国立音楽大学附属校に通い、同大学院を首席で卒業。ドイツ・デトモルト音楽大学大学院で2年学び、最優秀で修了した。

それだけの力量を持ちながら、国立音大や東京藝術大学などで特に成績優秀者に贈られるクロイツァー賞以外に、受賞歴はない。理由は明快。

「コンクールを受けたことがない」からだ。

音楽は楽しむもの。一人でも多くの人に音楽に親しんでほしいと、2年ほど前から、西東京市で随時、ミニコンサートを開いている。

◆ 幼児たちにも生の音楽を聴いてほしい、コンサートに行きにくい母親たちに息抜きの一と時を過ごしてほしい——そんな思いで、さる4月から、幼児とその親を対象にした「ママといっしょに気軽にクラシックコンサート」も毎月1回のペースで始めている(エリゼの会主催)。

口コミで評判が広がり、初回は41組、2回目は44組、さる6月29日には100組以上が来場。ピアノ曲の流れる中、母親の胸で眠る0歳児や、「トロ」の曲に踊りだす幼児の姿があった。

瞬間、瞬間で騒々しくなることもあるが、「慣れているし、みんなが集まってくる」と言われて公民館のよう

のはうれしいと屈託がない。クラシック音楽というと格式ばったコンサートになりがちで、日本において異色なスタンダードが、ドイツ留学をきっかけに、そういう取り組みに積極的になった。

国際ロータリー財団奨学生

誰だつて弾けるんだから



としてドイツ中部の小さな町、デトモルトに留学したの

は、1992年。その町を選んだのは、習いたい指導者がそこにいたからで、白鳥やカモがいて、人口も少ない、落ち着いた雰囲気も気に入った。

行ってから知ったことだが、町は、室内楽など「合わ

な所へ出かけると、合唱サークルの伴奏を求められることがしばしばあった。常に30人ぐらいから伴奏を求められ、週に3日はコンサートに出た。教会や老人ホームなどで、毎週演奏した。

特に印象深く覚えているのは、町の人の家に呼ばれたときのこと。「おじいちゃんの80歳の誕生日なの。何か弾いて」と頼まれて演奏を始める、家族・友人が肩を寄せ合い、暖炉の前で歌い始めた。暮らしの中に音楽が自然にある」という、子供の頃から夢見て

は、町の人の家に呼ばれたときのこと。「おじいちゃんの80歳の誕生日なの。何か弾いて」と頼まれて演奏を始める、家族・友人が肩を寄せ合い、暖炉の前で歌い始めた。暮らしの中に音楽が自然にある」という、子供の頃から夢見て

は、町の人の家に呼ばれたときのこと。「おじいちゃんの80歳の誕生日なの。何か弾いて」と頼まれて演奏を始める、家族・友人が肩を寄せ合い、暖炉の前で歌い始めた。暮らしの中に音楽が自然にある」という、子供の頃から夢見て

は、町の人の家に呼ばれたときのこと。「おじいちゃんの80歳の誕生日なの。何か弾いて」と頼まれて演奏を始める、家族・友人が肩を寄せ合い、暖炉の前で歌い始めた。暮らしの中に音楽が自然にある」という、子供の頃から夢見て

は、町の人の家に呼ばれたときのこと。「おじいちゃんの80歳の誕生日なの。何か弾いて」と頼まれて演奏を始める、家族・友人が肩を寄せ合い、暖炉の前で歌い始めた。暮らしの中に音楽が自然にある」という、子供の頃から夢見て

は、町の人の家に呼ばれたときのこと。「おじいちゃんの80歳の誕生日なの。何か弾いて」と頼まれて演奏を始める、家族・友人が肩を寄せ合い、暖炉の前で歌い始めた。暮らしの中に音楽が自然にある」という、子供の頃から夢見て

は、町の人の家に呼ばれたときのこと。「おじいちゃんの80歳の誕生日なの。何か弾いて」と頼まれて演奏を始める、家族・友人が肩を寄せ合い、暖炉の前で歌い始めた。暮らしの中に音楽が自然にある」という、子供の頃から夢見て

そばで聞いている母親に「ねえねえ、(セキレイが羽を)バチバチビチビチしているように聴こえる?」と幾度も尋ねた。そこには、イメージし表現する楽しさがあつた。そして、誰かと音楽を共有する喜びが——。

現在、ピアノ講師を務めている国立音楽大学附属中学・高校でも、生徒たちには、テクニックなどより「心」を磨くようにと指導する。

「自分がどういふものを奏でたいのかがなければ、どんなテクニックがあっても人を感動させられない。これから伸びていく子たちこそ、まず自分の心と対面してほしい。大切なことは、いつも心を出して音を出すということ」

ピアノは誰でもできる、が持論。自宅でもピアノ教室を開き、4歳から70代までの生徒をかかえている。

「鍵盤を叩くだけで誰でも音を出せる。それがピアノの良さ。年齢なんて関係ないし、ジャンルも問わない。一本指だつて弾けるんだから、とにかく音楽をしてほしい。そうして、みんなの心が豊かになっていくといいですよ」

◇ さとう・えみ 1965年6月生まれ、大阪府出身。7歳から西東京市向台町に住む。ドイツから帰国後は、各地でリサイタルを開催。音楽をもっと身近にしたいという地域活動として、国立市などでも演奏活動を行う。ライフワークとしてバツハに取組んでいる。

◇ 28日午後2時から西東京市保谷こもれびホール(中町1

そばで聞いている母親に「ねえねえ、(セキレイが羽を)バチバチビチビチしているように聴こえる?」と幾度も尋ねた。そこには、イメージし表現する楽しさがあつた。そして、誰かと音楽を共有する喜びが——。

現在、ピアノ講師を務めている国立音楽大学附属中学・高校でも、生徒たちには、テクニックなどより「心」を磨くようにと指導する。

「自分がどういふものを奏でたいのかがなければ、どんなテクニックがあっても人を感動させられない。これから伸びていく子たちこそ、まず自分の心と対面してほしい。大切なことは、いつも心を出して音を出すということ」

ピアノは誰でもできる、が持論。自宅でもピアノ教室を開き、4歳から70代までの生徒をかかえている。

「鍵盤を叩くだけで誰でも音を出せる。それがピアノの良さ。年齢なんて関係ないし、ジャンルも問わない。一本指だつて弾けるんだから、とにかく音楽をしてほしい。そうして、みんなの心が豊かになっていくといいですよ」

◇ さとう・えみ 1965年6月生まれ、大阪府出身。7歳から西東京市向台町に住む。ドイツから帰国後は、各地でリサイタルを開催。音楽をもっと身近にしたいという地域活動として、国立市などでも演奏活動を行う。ライフワークとしてバツハに取組んでいる。

◇ 28日午後2時から西東京市保谷こもれびホール(中町1

そばで聞いている母親に「ねえねえ、(セキレイが羽を)バチバチビチビチしているように聴こえる?」と幾度も尋ねた。そこには、イメージし表現する楽しさがあつた。そして、誰かと音楽を共有する喜びが——。

現在、ピアノ講師を務めている国立音楽大学附属中学・高校でも、生徒たちには、テクニックなどより「心」を磨くようにと指導する。

「自分がどういふものを奏でたいのかがなければ、どんなテクニックがあっても人を感動させられない。これから伸びていく子たちこそ、まず自分の心と対面してほしい。大切なことは、いつも心を出して音を出すということ」

ピアノは誰でもできる、が持論。自宅でもピアノ教室を開き、4歳から70代までの生徒をかかえている。

「鍵盤を叩くだけで誰でも音を出せる。それがピアノの良さ。年齢なんて関係ないし、ジャンルも問わない。一本指だつて弾けるんだから、とにかく音楽をしてほしい。そうして、みんなの心が豊かになっていくといいですよ」

◇ さとう・えみ 1965年6月生まれ、大阪府出身。7歳から西東京市向台町に住む。ドイツから帰国後は、各地でリサイタルを開催。音楽をもっと身近にしたいという地域活動として、国立市などでも演奏活動を行う。ライフワークとしてバツハに取組んでいる。

◇ 28日午後2時から西東京市保谷こもれびホール(中町1

そばで聞いている母親に「ねえねえ、(セキレイが羽を)バチバチビチビチしているように聴こえる?」と幾度も尋ねた。そこには、イメージし表現する楽しさがあつた。そして、誰かと音楽を共有する喜びが——。

現在、ピアノ講師を務めている国立音楽大学附属中学・高校でも、生徒たちには、テクニックなどより「心」を磨くようにと指導する。

「自分がどういふものを奏でたいのかがなければ、どんなテクニックがあっても人を感動させられない。これから伸びていく子たちこそ、まず自分の心と対面してほしい。大切なことは、いつも心を出して音を出すということ」

ピアノは誰でもできる、が持論。自宅でもピアノ教室を開き、4歳から70代までの生徒をかかえている。

「鍵盤を叩くだけで誰でも音を出せる。それがピアノの良さ。年齢なんて関係ないし、ジャンルも問わない。一本指だつて弾けるんだから、とにかく音楽をしてほしい。そうして、みんなの心が豊かになっていくといいですよ」

◇ さとう・えみ 1965年6月生まれ、大阪府出身。7歳から西東京市向台町に住む。ドイツから帰国後は、各地でリサイタルを開催。音楽をもっと身近にしたいという地域活動として、国立市などでも演奏活動を行う。ライフワークとしてバツハに取組んでいる。

◇ 28日午後2時から西東京市保谷こもれびホール(中町1

そばで聞いている母親に「ねえねえ、(セキレイが羽を)バチバチビチビチしているように聴こえる?」と幾度も尋ねた。そこには、イメージし表現する楽しさがあつた。そして、誰かと音楽を共有する喜びが——。

現在、ピアノ講師を務めている国立音楽大学附属中学・高校でも、生徒たちには、テクニックなどより「心」を磨くようにと指導する。

「自分がどういふものを奏でたいのかがなければ、どんなテクニックがあっても人を感動させられない。これから伸びていく子たちこそ、まず自分の心と対面してほしい。大切なことは、いつも心を出して音を出すということ」

ピアノは誰でもできる、が持論。自宅でもピアノ教室を開き、4歳から70代までの生徒をかかえている。

「鍵盤を叩くだけで誰でも音を出せる。それがピアノの良さ。年齢なんて関係ないし、ジャンルも問わない。一本指だつて弾けるんだから、とにかく音楽をしてほしい。そうして、みんなの心が豊かになっていくといいですよ」

◇ さとう・えみ 1965年6月生まれ、大阪府出身。7歳から西東京市向台町に住む。ドイツから帰国後は、各地でリサイタルを開催。音楽をもっと身近にしたいという地域活動として、国立市などでも演奏活動を行う。ライフワークとしてバツハに取組んでいる。

◇ 28日午後2時から西東京市保谷こもれびホール(中町1

そばで聞いている母親に「ねえねえ、(セキレイが羽を)バチバチビチビチしているように聴こえる?」と幾度も尋ねた。そこには、イメージし表現する楽しさがあつた。そして、誰かと音楽を共有する喜びが——。

現在、ピアノ講師を務めている国立音楽大学附属中学・高校でも、生徒たちには、テクニックなどより「心」を磨くようにと指導する。

「自分がどういふものを奏でたいのかがなければ、どんなテクニックがあっても人を感動させられない。これから伸びていく子たちこそ、まず自分の心と対面してほしい。大切なことは、いつも心を出して音を出すということ」

ピアノは誰でもできる、が持論。自宅でもピアノ教室を開き、4歳から70代までの生徒をかかえている。

「鍵盤を叩くだけで誰でも音を出せる。それがピアノの良さ。年齢なんて関係ないし、ジャンルも問わない。一本指だつて弾けるんだから、とにかく音楽をしてほしい。そうして、みんなの心が豊かになっていくといいですよ」

◇ さとう・えみ 1965年6月生まれ、大阪府出身。7歳から西東京市向台町に住む。ドイツから帰国後は、各地でリサイタルを開催。音楽をもっと身近にしたいという地域活動として、国立市などでも演奏活動を行う。ライフワークとしてバツハに取組んでいる。

◇ 28日午後2時から西東京市保谷こもれびホール(中町1

そばで聞いている母親に「ねえねえ、(セキレイが羽を)バチバチビチビチしているように聴こえる?」と幾度も尋ねた。そこには、イメージし表現する楽しさがあつた。そして、誰かと音楽を共有する喜びが——。

現在、ピアノ講師を務めている国立音楽大学附属中学・高校でも、生徒たちには、テクニックなどより「心」を磨くようにと指導する。

「自分がどういふものを奏でたいのかがなければ、どんなテクニックがあっても人を感動させられない。これから伸びていく子たちこそ、まず自分の心と対面してほしい。大切なことは、いつも心を出して音を出すということ」

ピアノは誰でもできる、が持論。自宅でもピアノ教室を開き、4歳から70代までの生徒をかかえている。

「鍵盤を叩くだけで誰でも音を出せる。それがピアノの良さ。年齢なんて関係ないし、ジャンルも問わない。一本指だつて弾けるんだから、とにかく音楽をしてほしい。そうして、みんなの心が豊かになっていくといいですよ」

◇ さとう・えみ 1965年6月生まれ、大阪府出身。7歳から西東京市向台町に住む。ドイツから帰国後は、各地でリサイタルを開催。音楽をもっと身近にしたいという地域活動として、国立市などでも演奏活動を行う。ライフワークとしてバツハに取組んでいる。

◇ 28日午後2時から西東京市保谷こもれびホール(中町1

ゆかたと帯

0120-002930
水曜定休日 ●田無山総持寺隣

無福澤屋



ハンドベル講座

(取材記者・谷 隆一)

西東京ハンドベルの会では、西東京市民会館(田無町4丁目)で「夏休みハンドベル体験講座」を開く(日本ハンドベル連盟直属「アルファ」協力)。小学4年以上で、楽譜の読める人が対象。小学生は保護者同伴のこと。日程は以下の通り。各回とも内容は同じで、定員7人。受講料1000円。

▽29日 午後1時30分から3時
▽31日 午後6時30分から8時
▽8月10日 午後6時から8時
▽8月12日 午前10時から11時30分
▽8月26日 午後1時30分から3時

問い合わせは印田さん(042-090-8435・9750 FAX 042-469-6876)へ。